

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22029

建築物名称	川崎授産学園再編整備事業
建築主	社会福祉法人セイワ 理事長 加藤 不二太郎
建築物の所在地	川崎市麻生区細山字原尾1209番1の一部 外3筆
設計者氏名、建築士事務所名	安江 知之 株式会社安江設計研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	6,022.06㎡
用途	児童福祉施設(障害者支援施設)
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和8年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎授産学園 再編整備事業	階数	地上4F
建設地	川崎市麻生区細山字原尾1209番の一部 外3筆	構造	RC造
用途地域	市街化調整地域、指定無し	平均居住人員	73 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2022年8月24日
敷地面積	6,826 m ²	作成者	安江 知之
建築面積	1,908 m ²	確認日	2022年8月24日
延床面積	6,022 m ²	確認者	安江 知之

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 96%
③上記+②以外の 96%
④上記+ 96%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑化協議により緑化推進に努めている 建物周辺に植栽を施し良好な景を形成している 空地率=72%	2.3/4.3	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔を工夫し、隣棟間隔指数0.4以上0.5未満にしている	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	居室 カーテンボックスと庇の2種類を組み合わせて制御している	0.6/0.9	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑化協議により緑化推進に努めている	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.77である。 BEI=0.95である。	3.0/5.0	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	床、壁材:タイル 床材:塩ビシート	2.9/4.7	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積 720.38㎡ 隣棟間隔0.5以上	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	ビニル床シートの更新必要間隔 20年、 ステンレスダクトを使用	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上材が容易に分別可能である。	2.6/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐車場を確保されている	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.77である。 BEI=0.95である。	3.0/5.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.77である。 BEI=0.95である。	3.0/5.0	3.0

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境										3.1
1 音環境										3.0
1.1 室内騒音レベル										3.0
1.2 遮音										3.0
1 開口部遮音性能										3.0
2 界壁遮音性能										3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0
1.3 吸音										3.0
2 温熱環境										3.0
2.1 室温制御										3.0
1 室温										3.0
2 外皮性能										3.0
3 ゾーン別制御性										3.0
2.2 湿度制御										3.0
2.3 空調方式										3.0
3 光・視環境										2.8
3.1 昼光利用										2.4
1 昼光率										2.0
2 方位別開口										3.0
3 昼光利用設備										3.0
3.2 グレア対策										3.0
1 昼光制御										3.0
3.3 照度										3.0
3.4 照明制御										3.0
4 空気質環境										3.9
4.1 発生源対策										4.0
1 化学汚染物質										4.0
4.2 換気										3.0
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										3.0
3 取り入れ外気への配慮										3.0
4.3 運用管理										5.0
1 CO ₂ の監視										5.0
2 喫煙の制御										5.0

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.8
1 機能性									
					2.5	0.40	4.0	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ									
					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			住居 個室10㎡以上で、かつ多床室8㎡以上	3.0	-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性									
					1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観			住居 天井の高さが2.5m以上としている	3.0	-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3	内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
					3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			内装材は防汚性の高い建材を使用し、風除室の1次扉と2次扉の間は2.5m取り同時に開かないように配慮されている。	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									
					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振									
					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
					3.1	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R	ビニル床シートの更新必要間隔 20年	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R	ステンレスダクトを使用	4.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性									
					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性									
					2.9	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり									
					2.8	0.30	2.8	0.50	
1	階高のゆとり				2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率 共用部 0.19 住居部 0.18	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり									
					3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性									
					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)									
					—	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				G	W				
					2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					
					3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									
					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
					3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				
					3.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性											3.0		
LR1 エネルギー									—	0.40	-	-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H				BPI=0.77である。	5.0	0.20	-	-	5.0	
2	自然エネルギー利用	W	H					3.0	0.10	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化	W	H				[BE][BEIm] = 0.95	2.2	0.50	-	-	2.2	
4 効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング	W	H					3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制	W	H					3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価								3.0	-	-	-		
4.1	モニタリング	W	H					3.0	-	-	-		
4.2	運用管理体制	W	H					3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル								—	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護				W	R			3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1 節水								3.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無							3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減								3.3	0.60	-	-	3.3	
2.1 材料使用量の削減				W	R			2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W	R		床・壁材:タイル 床材:塩ビシート	4.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R			3.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R		躯体と仕上材が容易に分別可能である。	4.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避								2.3	0.20	-	-	2.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避								2.0	0.70	-	-		
1	消火剤	W						-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	W						2.0	1.00	-	-		
3	冷媒	W						-	-	-	-		
LR3 数地外環境								—	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮				W			一般的な建築物と同等	3.1	0.33	-	-	3.1	
2 地域環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減			R				3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-		
1	騒音							3.0	1.00	-	-		
2	振動							-	-	-	-		
3	悪臭							-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制							3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制							3.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制							3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						チェックリストの項目の過半を満たしており、広告物照明はない	5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-		